



馬耳東風

「MOTTAINAI」獣医学博士号を持ちノーベル平和賞受賞の故ワングリ・マータイさんの日本語の言葉である。グリーン・ベルト・ネットワークは、アフリカ大陸全土で女性を中心に植林活動を通して資源を有効利用するための自立支援を行い、女性の地位向上を促した。何と4,000万本の植林で砂漠化を抑え、森林破壊を食い止め、持続可能な開発に貢献した。彼女はナイロビ大学で初の女性教授である。環境や天然資源・野生動物の副大臣を務めたのもうなずける。専門の生物学や獣医学の目を通して、したたかに実践を旨とした活動家であった。彼女の棺は、木を使わない方法で国葬にされたという。アフリカの環境破壊や地球温暖化は猶予ならない事態に陥っている。彼女の意思を世界が共感し共有して受け止め、持続的な実践が求められている。アフリカの乾燥化・砂漠化は年毎に進行し、人口爆発と飢餓の深刻化が周知のとおり緊急の国際問題となっている。

さて、アフリカの乾燥や干ばつとは対照的に、水と緑に囲まれた日本の国土は、気象変動によりかつてない集中豪雨や異常高温に見舞われ、生活環境への影響は計り知れない。タイの集中豪雨による低地での洪水は、生活や産業へ甚大な損害をもたらした。過去に無いような事態があちこちで発生している。日本の森林面積は70%を占め、樹種も豊富で独特の木の文化を形作り、国土の保全や温暖化防止に役立っている。その効果は誰でも知

っている。蓄積量の70%が針葉樹で残りが広葉樹である。今や輸入外圧で、木材の自給率は20%に過ぎない。輸入による経済淘汰で木材の国内需要は減少し、それが森林荒廃につながり、加えて花粉症の引き金となった。しかしながら、今や木材輸出国の資源保護によりパルプやチップの輸入割合が増えてきた。国土保全を基底に据えながら、創設から50年の水源涵養林や生物多様性あるいは防風・景観観光資源として、多目的な存在と里山活用が求められてきた。そこには競争原理で計れない資源の新たな活用性が見出せる。そこへ来て、森林の持つ保水能力以上の豪雨や地震で山崩れが堰止湖を形成し、増水による堰損壊の脅威が発生する。過疎地が多いだけに危機管理は予断を許さない。また、林業再生には低コストが求められ超短伐期林業・さし木林業・雪害に負けないエリートツリーから、やがて選抜から交雑の時代を目指し、木材の年輪情報から産地の識別や、伐採しないで地上部バイオマスを推定する研究も進められている。さらに、樹木には人の推し量れない神秘性がある。人の寿命を遥かに超える巨樹・巨木は、今や静かなブームとなって人を引き付ける。環境省の調査によれば、スギ、シイ、サワラ、ヒノキが多く、これらは3割近くが信仰の対象でいかにも日本の木だ。国内最大の「蒲生の大クス」は、樹齢1500年で幹周23mを越し注連縄を巻かれ神格充分である。今年の国際森林年を経て「みどり」の季節、思いを記してみた。

(柏)